

～感覚教育について～

人間の子どもは、他の動物と比べると、未完成の早産の状態で生まれてきます。ですから、生まれてから数年の間は、感覚器官(主に手)を使って、周りの環境を吸収しながら、自分自身を完成させていきます。モンテッソーリ文庫は、視覚、触覚、聴覚、味覚、嗅覚という五感にわけて、それぞれの刺激を合理的に、組織的に導くような独自の教具を考案しました。それが、**感覚教具**と呼ばれるものです。周りの雑多な環境から、子どもが一つひとつの感覚を取り出して体験できるように、デザインされています。

例えば... **大きさ(寸法)** という概念は実際に目で見て、触って感じて分かることです。大きさという抽象概念は、大きさそのものとしては存在しえません。

子どもにとって「大きい」=  象 =  お父さん ???

→ 同じ**大きい**という表現を使っても、象とお父さんでは大きさが違い、その意味するものは曖昧です。

そこで、モンテッソーリは、**大きさ(寸法)**を子どもに分かりやすく感じてもらうために工夫をしました。

【ピンクタワー】



☆大きさの差だけに子どもの注意が集中するように作られています。

- ・ 木製で桃色である

- ・ 全ての形が立方体である

☆違う点は、一辺が10センチの立方体から1センチずつ辺が短くなり、10個目は、1センチの立方体になる所だけです。

→ この2点は共通



(大きい)



(小さい)



※この10個の立方体を大きい順に何度も積み重ねて塔を築くことを通して、子どもに大きさの違いを**視覚**を通して識別させるのです。

◎他にもまだまだ感覚教具はあります。

<視覚  >

- ピンクタワー → 大きさ
- 茶色の階段 → 太さ
- 色板 → 色
- はめこみ円柱 → 量(かさ)の弁別
- 色付き円柱 → 次元による変化
- 幾何図形の引き出し → 色々な形
- 構成三角形 → 形の構成

<触覚  >

- 触覚板 → 触覚
- ひみつ袋 → 実態確認
- 幾何立体のかご → 立体認識
- 重量板 → 重量

<聴覚  >

- 雑音筒 → 音の違い

☆これらのものを使って、子どもは環境の中のあらゆる印象を**整理し、分類し、体系づける**のです。それは、子どもの知性に、的確に働きかけることです。

こうした子どもの活動は、その次の子どものさらに**高度な知的生活の基礎**を作ることになります。

教具紹介

ひみつ袋 <第一の袋>



同じものが2セットです。二人で行います。

手を袋の中に入れて、見ないで相手の取り出したものと同じ物体を取り出すゲームです。

☆袋の中身は、子どもの日常にあるもの



(例) (ビー玉) (スプーン) (ゴム) (洗濯バサミ) (スポンジ) etc.....

※他に4種類あり、全部で5種類の袋があります。どれも指先でさわって物体を認識する遊びです。

ご家庭でも袋と中身さえ揃えることができれば、すぐにできます!!

袋の中身は、時々取り替えて「何が入っているのかな」と期待が持てるように、いつも子どもにとって「ひみつ袋」であるよう工夫することが大切です。

是非、お試しください!!

現代では、便利さが受けて五感を代行するセンサーがどんどん開発されています。だからこそ、耳を澄ます、目をこらす、ほのかな香りを嗅ぐといった弱い刺激を感じられるような、動きかけをすることが、今の私たち大人の役目なのではないでしょうか。

風の音や葉ずれの音を聞き分けられるような豊かな感性をもった子どもを私たち大人が手助けできることがたくさんあります。そして、私たち大人も、子どもを通して豊かな感性を共に育むことができたなら素晴らしいですね。

